

# ともに先へ、先へ。

民主党 参議院比例区第65総支部総支部長

参議院議員 **えさきたかし**



## えさきたかしの「がんばるバイ」No.43

### 解釈改憲の閣議決定を許さない

5月15日に安倍総理の私的諮問機関である「安保法制懇」が報告書を提出し、安倍総理が記者会見をしたことは、皆さんもご存じの通りです。記者会見で安倍総理は、赤ちゃんを抱いた母親とおじいさん、おばあさんの絵が入ったパネルを使って、集団的自衛権がなければ国民の安全を守ることが出来ない、と説明をしました。会見を見て、非常に情緒的で国民におもねるか印象を受けた方が多かったようです。安倍総理自身、大多数の国民が集団的自衛権の行使容認には慎重であると理解していたのでしょう。

国民の半数以上が反対していても、集団的自衛権の行使容認に向けて強引に与党協議を進めおり、20日にも閣議決定しようとしています。これまで国会の議論などを通じて、「集団的自衛権は行使できない」ということが政府の憲法解釈の公式見解として何度も確認されてきました。これを安倍内閣だけ、しかも国会での議論もほとんどなく、1ヶ月程度の与党協議で変更することは、まさに「暴挙」と言わざるを得ません。この動きに対し、ほとんどの憲法学者など、著名な方々が反対の声を上げています。また、全国各地でも「戦争をさせない1000人委員会」が立ち上げられ、様々な活動に取り組んでいます。

巨大な与党を背景に押し進めようとする安倍政権を止めることは容易ではありませんが、解釈変更を閣議決定しようとする暴挙を決して許さず、皆さま方と連携して、阻止の「うねり」をつくり出せるよう出来る限りの活動を行ってまいります。

#### 安倍総理と集団的自衛権を巡りバトル～参議院決算委員会にて質疑～



6月9日(月)に開催された参議院決算委員会の締め括り総括質疑にて質問に立ち、安倍総理と集団的自衛権の解釈変更について、いろいろな切り口からその必要性のないことを指摘し、閣議決定を行わないよう求めました。

質問では、大きくは次のような論点を取り上げました。

①集団的自衛権行使を容認することは、米国の戦争に血を流す覚悟で参加する事だ。

安倍総理は、戦争はしない、行使は限定的にすると繰り返すが、これは大いなる矛盾。自衛隊員に血を流す覚悟を迫る一大政治決断を一内閣だけでの決定で本当にできるのか。

②戦争は相手のあるもの。一度生まれれば「必要最小限度」で止めることはできなくなる。限定的は歯止めにはならない。

③今の日米同盟関係は、米国に一方的に守ってもらっているため片務性が高く是正する必要があると安倍総理は言うが、米国の戦争に参加できるとするなら双方性、対等になる。基地の撤廃を求めなければ、逆に日本の負担が大きくなり片務的になるが、安倍総理はそれを米国に求める覚悟はあるか。

④安保法制懇の事例は、現行法制度で対処可能。集団的自衛権の行使容認との理由にならず「詭弁」。行使後の状況についても国民に語っておらず、国民を愚弄している。

当日は、NHKにて生中継されたこともあり、ご覧いただいた方も多いかと思えます。安倍総理は質問に正面から答えず、自分の主張ばかり述べていました。TV入りの委員会質問での総理との直接対決は初めてということもあり、総理の答弁と議論が噛み合わず、また時間の関係もあって十分な議論が出来たかとの反省もあります。しかし、質問後、学者や文化人、一般も含めた様々な方々から多数の激励の電話やメールなどをいただき、少しホッとできました。これからも皆さんの声を届けられるよう、頑張っ

